



第70号

発行所
大原野自治連合会
大原野社会福祉協議会

新しい時代に向かって 大原野の郷づくり



大原野自治連合会長 永谷 文隆

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。地域の皆様ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は大原野自治連合会の諸活動の取組みに対し、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本年も昨年同様よろしくご協力ご支援をお願い申し上げます。

昨年は振り返りますと地球規模での温暖化によって自然災害の多い年でした。9月には台風15号の房総半島上陸により、多くの被害が発生しました。また、10月には台風19号上陸により、長野県や関東・東北地域で大雨特別警報が発令され、河川の氾濫・決壊による住宅・田畑の浸水で多くの犠牲者、また、農作物にも大きな被害が発生しました。お亡くなりになられた方にはお悔やみ申し上げると共に被災者に対しお見舞い申し上げます。一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。我々においても余所事ではございません。いつ何時災

害が発生するかわかりません。平時から災害に対する身構えが必要です。各自自治会より行政機関に要望書を提出していただいています。大原野地域全体として毎年都市計画道路「石見中山線」、上羽掛第二工区」を昨年度も西京区長懇談会に、早期着工完成を期し要望書を提出いたしました。最近、ニュース等で報道されている通り全国的にクマの出没などが多発しております。大原野地域でも、昨年10月18日に京都第二外環状道路側道「小塩地区」、また、10月21日には特別養護老人ホーム西山寮北側道路「石作地区」で通行人に目撃されています。今年も、人里近くに出没する可能性がります。山際での農作業や山作業、山への散策などで山へ入られるときには、大きな音が出る鈴やラジオなどを鳴らしながら、なるべく複数での行動を心掛けるようにして下さい。特に子グマを見かける場合は、近くに親グマがいる可能性

が高いので、すぐにその場を離れて下さい。家の近くにクマを引き寄せないために、家の回りには生ゴミなどを置かないようにして下さい。クマを見かけた場合は情報を連絡して下さい。連絡先は、京都市西部農業振興センター（075-321-0551）、または京都市西京区役所西支所地域力推進室（075-321-9318）、です。さて、「レジリエンス」をご存知ですか。「レジリエンス」という言葉は、

もともと物体が元に戻るうとする力を意味し、心理学や生態学で主に用いられていましたが、2001年のニューヨークでの9・11同時テロにおいて、復興に向けた合言葉として用いられていたことから、災害や危機への対応において広く使用されるようになりました。特に、平成23年（2011年）にわが国で発生した東日本大震災が契機となって関心が高まり、今日、様々な危機や課題に対処する上で、世界共通のキーワードの一つとなっています。この言葉は一般的に、様々な危機からの「回復力・復元力・強靱性（しなやかな強さ）」を意味すると共に、ダメージを受けても粘り強くしなやかに元に戻りながら、以前よりもよく立ち直る状態を表現しています。例えば「私たちが何か困難に直面し、心が折れそうになっても乗り越える力」や「自然環境が一度損なわれても、生態系が根絶やしにならず元に戻

る力」などの例えが分かりやすいでしょう。身近な諺では、「雨降って、地固まる」「災い転じて、福となす」といった表現が当てはまります。都市に於いては、「悪影響を及ぼす外からの力や、内部で生じる様々な困難な問題に、屈することなく粘り強く対処し、克服し、より良く発展する能力」が、「レジリエンス」なのです。そこであらゆる危機を乗り越え、将来にわたって人々が生き生きと暮らせる、魅力と活気に満ちたまちを目指して、レジリエンスの理念を政策に反映し、実行していくための取組指針として「京都市レジリエンス戦略」が策定されました。今後大原野地域の活性化、地域振興に向け皆様と共に取り組んでまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。本年も皆様にとって良い年でありますようご祈念申し上げます。

『一日の計は朝にあり 一年の計は元旦にあり』

大原野社会福祉協議会長 小原 喜信

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族お揃いで清々しい新春をお迎えのことと存じます。平素より大原野社会福祉協議会の事業活動に對しましてご支援を頂いてお

りますことに深く感謝申し上げます。本年も地域福祉の充実を目指して活動を進めてまいりますので、皆様には引き続きご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

大原野社会福祉協議会は昭和54年に設立され、以来40年の歳月を重ねてまいりました。これもひとえに地域の皆様のご理解とご協力があつたからこそ、衷心より感謝申し上げます。元旦は日付を表すものとされます。元旦は時間を表すものとも言えます。さて、今年はどうなる年になるのでしょうか。昨年は自然災害の多発する一年になりました。災害から身を守るために、防災や減災の知識の習得を今

を汲みながら、明日へのより良い「支え合い社会」づくりを目標に事業活動を進めてまいりたいと思ひます。

新年を迎えるにあたりまして『一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり』という諺を、思い起こされる方はたくさんおられることと思います。諺の意味は、一日の計画は一日の初めである朝に立て、一年の計画は一年の初めである元旦の朝に立てるべきである、何かを始めようと思うなら早いうちにしっかりと計画を立てて進めましょうということになります。

元旦と元日。こちらもその違いが気になるところです。元日は年の最初の日をさし、1月1日のことを言います。一方の元旦とは、厳密には1月1日の夜明け、もしくは日の出のことをさします。元日は日付を表し、元旦は時間を表すものとも言えます。

さて、今年はどうなる年になるのでしょうか。昨年は自然災害の多発する一年になりました。災害から身を守るために、防災や減災の知識の習得を今



新年会イベントの様子

共同募金 金、490,000円 (令和元年12月9日現在)

ご協力ありがとうございました。
本年度も自治会長様を通じて、多くの方々のお世話になり、上記のご厚意を頂き、誠に有難うございました。

《天ぷら油回収》
月～金 A.M.9:30～P.M.4:00
大原野総合自治会館
— 持参した容器は必ず持って帰って下さい —

《アルミ缶プルトップ回収》
月～金 A.M.9:30～P.M.4:00
大原野総合自治会館
プルトップをあつめて車椅子をもらいましょう。ご協力お願いします。
— 車椅子を貸出しています —

心鏡邑和

●紅（くれない）、萌黄（もえぎ）、山吹（やまぶき）、蘇芳（すおう）、日本の伝統色の名前である●天平、平安時代から受け継がれてきた日本の色。その数なんと400余色。世界に誇る文化の一つと言えよう●昨年の「即位正殿の儀」で印象的だったのは、天皇陛下の装束の色。そして、女性皇族方の平安絵巻のような十二単姿だった●日本の伝統色が厳かな儀式にあでやかさを添え、世界に発信された●日本の色で思い出すのは昨年亡くなった染織家、吉岡幸雄さんである●京都伏見の「染司よしおか」の五代目当主として植物染料で日本の伝統色の再現に取り組み、皇室とも関係があった。「染司よしおか」は、毎年東大寺お水取りに使う紅花染の椿の造花を奉納するなど、古社寺の伝統行事に従事している。2004年には吉岡さんの「赤」（日本の赤）に注目したシャネルが口紅を開発、発売した●吉岡さんによると「平安時代の染織技術は本場にすくく」、日本の伝統色は平安貴族たちの資金力と審美眼によって磨き上げられたと言う。京の四季の移ろいを糸に染め上げる、これが日本の原点ということになる●金蔵寺の秋の紅葉が、お気に入りのスポットだった。「なすにしん」を一緒に食べたのが最後になってしまった。

（京都放送 中澤隆司）

市街化調整区域における

「地区計画制度」を活用した

上里地区のまちづくりの取組

上里地域振興協議会長 富阪裕一

大原野地域が京都市の市街化調整区域に指定されたのは昭和46年。それからほぼ半世紀が経ちます。当初は農地を守り洛西ニュータウンの無制限の拡大を防ぎ農業経営に資したと思いますが、それが今では少子高齢化に見舞われ地域の活力低下を招いています。良かれと思われた施策が今では足かせになっていきます。市街化調整区域には、プラス面とマイナス面があり、マイナス面をこのまま放置することはできません。孫・子の代に対する我々の責任として今できることをしていかなばなりません。

現在では、65歳以上の

皆さんが地域の担い手

大原野老人クラブ連合会(悠愛会)

会長 畑 勲

記念すべきオリンピックの年が皆様にとっても良き年となりますよう心からお祈り申し上げます。昨年は悠愛会の活動に対しご協力を賜りました事、厚く御礼申し上げます。昨年の活動内容は、私の指導力不足もあり、今一つ満足の行かない反省の多い年となつてしまいました。近年地域の高齢化が進み、活動への参加の減少が目立ってきてい

消防団だより

大原野消防分団 石見班

平成29年度から上里地区(上里自治会・上里地域振興協議会)・西京区役所洛西支所、京都市都市計画局の3者で勉強会を開いたり、地域の人たちと意見交換会を開いたり、「まちづくりニュース」を発行したりしながら昨年度末に「上里地区まちづくりビジョン」を作り、今年度からはビジョン実現に向けて、具体的に地区計画の素案を検討する作業に入っています。

新年あけましておめでとうございます。大原野地域の皆様におかれましては、消防団の活動に対し、温かいご支援ご協力をいただきましてありがとうございます。

まだ大勢いらっしゃると思うと思います。関西地方の方々には一昨年前の台風の被害を思い起こした方も多かったのではないのでしょうか。

消防団の活動は多岐に渡ります。このような災害に備えた訓練や毎月の巡回警備、年末の特別警備、啓発活動、地域の催し物での警備などがあります。火災時は初期消火・交通整理・鎮火後の警備、風水害時は避難誘導・救出活動です。様々な災害に備えた訓練はしておりますが、前述のような甚大な被害をもたらす災害に直面したときにどれだけのことが出来るかと不安に思うこともあり

しかしながら老人クラブ(悠愛会)自体の存在にも魅力が無くなつて来ているのではないかと、言うことが最大の課題点と私自身は感じております。諸先輩が長い歴史を築いてこられたことを考えると、もっともつと地域の仲間創りと共に知恵を絞って時代に合った老人クラブへの進化を図って行きたいとの思いがあります。長年積み重ねてこられた皆様の経験を活かした、新しい企画力こそが必要不可欠であり、現状を変革できる唯一の原動力になりうるものと考えます。歴史ある故郷大原野の活性化のためにも多くの皆様の新規入会と、更なるご協力をお願い致します。

昨年5月に年号が変わり、令和も早2年となりました。近年毎年のように大きな災害が起こっています。昨年も激甚災害に指定されるほどの台風による甚大な被害が起こりました。千葉で大きな被害をもたらした台風15号に続き、東日本各地で大規模な川の氾濫洪水、土砂崩れ、道路の崩落、家屋の倒壊、停電、断水などを引き起こした台風19号が日本を襲いました。

新年を迎えた今日もそれらの爪痕が残っている、苦しんでいる方々がまだ多いと思います。災害はいつ起こるかわかりません。一人一人が災害への意識を高めていくことが大切なことだと思います。

避難所に思う

大原野地域自主防災会 副会長 木村嘉和

四季のめりはりが、星空の輝きが薄れ、想定外の降雨・暴風雨が予期せぬ場所に甚大な被害をもたらしている。地球の温暖化他により、異常気象・気候変動が起きてい

思います。風害(台風・竜巻)の予告で、「頑丈な建物への避難」を耳にするとき、事住宅にあつては限られるのではないかと。屋根のブルーシートを見ると、構造を含めた建物の建築基準法を考慮しなければならな

す。災害が起こった時、身近に差し迫ろうとする時に何を待って避難するか、避難場所はどこか、避難経路はどうかなどを

京都市生涯学習フェスティバル

第25回 フェスタ大原野

広げよう地域の輪 深めよう心と心のふれあいを

とき 11月10日(日) 午前10時～午後2時30分

ところ 大原野中学校

***** イベント内容 *****

こもれびコンサート、模擬店、喫茶、お茶席、森林公園展示、作って遊ぼうコーナー、缶バッチ、パウチ、迷路、展示コーナー、安心安全コーナー、健康教室、福祉体験、竹細工、囲碁・将棋、自主防災、軽スポーツ、消防団ふれあいコーナー、農産物、花トピア、ポストショップ、フリーマーケット、スタンプラリー、育児中ママの休憩室、洛西エコマチステーション、西京塾など

おいしい野菜、米、豊かな田園風景、趣深い寺社など

大原野の魅力が フード・フード

なんやかんや! 風土・food大原野2019

とき 11月23日(土) 午前10時～午後2時

ところ 大原野神社境内

大原野をたのしむ

農産物の品評会と即売会

地産の新鮮野菜・味噌などの直売、手作り体験など

大原野をあげよう

地産の食材を使った食物もりだくさん

両イベント共、秋晴れにめぐまれ大勢の方々に来て頂きました。裏方さん、本当にご苦労さまでした。

温かいつながりに育まれる

大切なこと

大原野小学校 教頭 加地 知子

地域の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育の推進にご理解、ご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

昨年、日本中が沸いたラグビーワールド杯。選手たちの熱い戦いぶりとともに礼儀や相手を尊重し思いやる行動が話題となりました。また、ワールド杯開催中に起きた大災害の際には、フランスの選手が地元への応援にとボランティア活動をされました。「大切なことは何か」ラグビーを通して、多くの人が感じ、考える大会となりました。

本校では、子ども達の「よりよく生きていく」とする力を育むために様々な取組をしています。道徳科や社会科、総合的な学習の時間に、地域のことを調べたり地域の方をゲストティーチャーとして招き、お話を伺ったりしました。米作りや地域の安全を守る活動に携わる方々の思いや努力を知り、子ども達は多くの方に支えられていることに感謝の気持ちを抱きました。

動き続ける中で

考えたいこと

大原野中学校 教頭 梶 聡

保護者、地域の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。今回は「成長」をキーワードにして今年も文化祭について触れたいと思います。文化祭は昨年の「変化」から、さらに成長した舞台発表が見られました。委員会の発表を幕間に組み入れ、有志の発表は学年の

いふれあいの機会となっており、引き続き大切にしていきたい取組です。子ども達が自分達の住む地域を知り、人とふれあいがら学ぶことを今後大切にしていきたいと思っています。

また、「つながり」を大切にした取組も継続しています。人権について考える「つながりの日」。一、六年生で構成されるグループ「つながりグループ」での活動。これらの取組を通して、子ども達の中に、「みんなと楽しむこと」「みんなと喜ぶこと」を目指す気持ちが芽生えてきていると感じます。

子ども達は、大原野地域の「温かいつながり」の中で、大切にされる安心感や喜びを味わい、人を思いやる心を育んでいると感じます。これからも子ども達が、「大切なことは何か」を



トからは達成感・満足感を手に入れた様子がよく伝わってきました。先輩の活躍を目の当たりにした後輩たちが、それを目標により大きく育つてく

考え、よりよく生きていくとする力を培っていきけるよう、教職員一同一丸となって取り組んでまいります。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。



自らの成長を考えると、立ち止まっています。成長はありませぬ。私たちは行き詰まっていると感じたら、どうにかして動き出す方法を見つけようとしています。それ自体に意味はないとしても、動き続けることが大切で、そうしている間に成長への糸口が見つかることも多々あります。生徒たちも行事を通してそのことを経験してくれたと思います。そして、「自分たちがしてきたことが、後の人達に受け継がれるのだ」という意識をもたせることで、行動に責任感をもたせられることも可能と考えます。今後とも生徒と共に大原野中の成長を支えていきたいと思っておりますので、皆様のご支援ご協力を本年もよろしくお願いいたします。

大原野の「里」に学ぶ

上里小学校 教頭 渡邊 壽男

新しい年の始まりを迎え、地域の皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本校教育の推進に、深くご理解、ご支援いただき、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、上里校では、昨年にもたくさんの方々の行事や学習で、地域の皆さんにお世話になりました。

本校の学校教育目標の中に「里に学ぶ」があります。その土地を耕し、その土地で暮らし、仕事や生活で繋がりが合っている「里」には、子ども達が学ぶことがいっぱいあります。

例えば、一年を通して取り組んでいる「米づくり」では、代かき、田植え、除草、稲刈り、脱穀と続く一連の農作業を経て、授業でご飯を炊いたり、「五平餅」を作ったり、そのあと子ども達が工夫をこらした「収穫祭」を



行い、最後に一年の豊作と健康を祝う「もちもち広場」のお餅つきで締めくくられます。このほかにも、脱穀の時のわらを、農園の肥料や温床として使ったり、地域の方に教わる、わら細工の材料として使ったり、まったく無駄になるものはありません。まさに一つ一つの学習が結び付いています。昨年もたくさんの方々の地域の皆様にお世話になりました。ありがとうございます。

この他にも、相撲の取組もあげられます。他にない環境の下で大原野地域の子ども達は、体を動かす遊び感覚の中で、楽しさを感じ取っています。神社の奉納相撲や、コミプラ相撲など、各種の大会に出場する姿、応援する姿それぞれがとても清々しく、輝いています。改めて感謝申し上げます。

このように地域ぐるみで子どもが学び育つ環境こそ、他のどこにもない大原野地域の素晴らしいところだと考えます。本当にありがとうございます。



大原野幼稚園

年長児が一万個の紙コップを使って、



友達と工夫してさまざまな形を作りあげていきました。できあがった作品に、達成感いっぱいの一日でした。

上里竹の子こども園



今日は楽しみにしていた、お泊まりキャンプの日。お母さん、お父さんに、僕たちが作った美味しいカレーを食べてもらおうぞ。

大原野こども園

子ども達は運動あそびが大好き。走って止まってボールを入れて！わくわくドキドキする楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいます。また明日もみんなで遊ぼうね。



のびゆく園児たち

市街化調整区域における

「地区計画制度」を活用した

上里地区のまちづくりの取組

上里地域振興協議会長 富阪裕一

大原野地域が京都市の市街化調整区域に指定されたのは昭和46年。それからほぼ半世紀が経ちます。当初は農地を守り洛西ニュータウンの無制限の拡大を防ぎ農業経営に資したと思いますが、それが今では少子高齢化に見舞われ地域の活力低下を招いています。良かれと思われた施策が今では足かせになっていきます。市街化調整区域には、プラス面とマイナス面があり、マイナス面をこのまま放置することはできません。孫・子の代に対する我々の責任として今できることをしていかなばなりません。

現在では、65歳以上の

皆さんが地域の担い手

大原野老人クラブ連合会(悠愛会)

会長 畑 勲

記念すべきオリンピックの年が皆様にとっても良き年となりますよう心からお祈り申し上げます。昨年は悠愛会の活動に対しご協力を賜りました事、厚く御礼申し上げます。昨年の活動内容は、私の指導力不足もあり、今一つ満足の行かない反省の多い年となつてしまいました。近年地域の高齢化が進み、活動への参加の減少が目立ってきてい

消防団だより

大原野消防分団 石見班

新年あけましておめでとうございます。大原野地域の皆様におかれましては、消防団の活動に対し、温かいご支援ご協力をいただきましてありがとうございます。

昨年5月に年号が変わり、令和も早2年となりました。近年毎年のように大きな災害が起こっています。昨年も激甚災害に指定されるほどの台風による甚大な被害が起こりました。千葉で大きな被害をもたらした台風15号に続き、東日本各地で大規模な川の氾濫洪水、土砂崩れ、道路の崩落、家屋の倒壊、停電、断水などを引き起こした台風19号が日本を襲いました。

しかしながら老人クラブ(悠愛会)自体の存在にも魅力が無くなって来ているのではないかと、言うことが最大の課題点と私自身は感じております。諸先輩が長い歴史を築いてこられたことを考えると、もともとと地域の仲間創りと共に知恵を絞って時代にあった老人クラブへの進化を図って行きたいとの思いがあります。長年積み重ねてこられた皆様の経験を活かした、新しい企画力こそが必要不可欠であり、現状を変革できる唯一の原動力になりうるものと考えます。歴史ある故郷大原野の活性化のためにも多くの皆様の新規入会と、更なるご協力をお願い致します。

年頭のご挨拶には、はなはだ失礼な内容とは存じますがやむを得ない現状をご理解いただきますようお願い申し上げます。

避難所に思う

大原野地域自主防災会 副会長 木村嘉和

四季のめりはりが、星空の輝きが薄れ、想定外の降雨・暴風雨が予期せぬ場所に甚大な被害をもたらしている。地球の温暖化他により、異常気象・気候変動が起きてい

思います。風害(台風・竜巻)の予告で、「頑丈な建物への避難」を耳にするとき、事住宅にあつては限られるのではないかと。屋根のブルーシートを見ると、構造を含めた建物の建築基準法を考慮しなければならな

す。災害が起こった時、身近に差し迫るとする時に何を待って避難するか、避難場所はどこか、避難経路はどうかなどをご家庭で話し合い、準備していただければと思います。

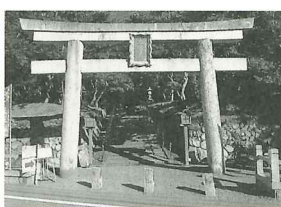
消防団員数は全国的に減少しております。少子高齢化で人口が減少していく中、団員数の減少も当然のことかもしれません。しかし、自分たちの地域を守るため、一人でも多くの方に入団していただければと思います。

これは、地形による要因が大きいが、此処大原野地域においては、河川の氾濫は改修工事により減ってきたと思うが、土砂災害の懸念は強いと思っています。また、地震は予期できないため当然のことであるが、避難は事後になる。事前のそれぞれの避難は、各個人の判断で行なうこととなります。地域住民が協力連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」という自主防災組織の意義からも、一人一人が危機管理意識を共有することが、安心・安全に繋がると思います。

避難所に当てられている学校他の避難所環境がもっと良くなる様に、行政の協力を願います。

おいしい野菜、米、豊かな田園風景、趣深い寺社など 大原野の魅力が 風土・food大原野2019

とき 11月23日(土) 午前10時～午後2時
ところ 大原野神社境内



大原野をたのしむ
農産物の品評会と即売会
地産の新鮮野菜・味噌などの直売、手作り体験など

大原野をあげよう
地産の食材を使った食物もりだくさん



京都市生涯学習フェスティバル 第25回 フェスタ大原野

広げよう地域の輪 深めよう心と心のふれあいを

とき 11月10日(日) 午前10時～午後2時30分
ところ 大原野中学校



***** イベント内容 *****
こもれびコンサート、模擬店、喫茶、お茶席、森林公園展示、作って遊ぼうコーナー、缶バッジ、パッチ、迷路、展示コーナー、安心安全コーナー、健康教室、福祉体験、竹細工、囲碁・将棋、自主防災、軽スポーツ、消防団ふれあいコーナー、農産物、花トピア、ポストショップ、フリーマーケット、スタンプラリー、育児中ママの休憩室、洛西エコマチステーション、西京塾など

両イベント共、秋晴れにめぐまれ大勢の方々に来て頂きました。裏方さん、本当にご苦労さまでした。